

広島県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点	
問題構成	文学的文章、説明的文章、古文の大問3題構成。 大問1は文学的文章が出題され、配点は20点。 そのうち内容読解以外の問題は、漢字の問題（読み）が3点。 大問2は説明的文章が出題され、配点は18点。 そのうち内容読解以外の問題は、漢字の問題（書き）が3点。 大問3は古文が出題され、配点は12点。 そのうち内容読解以外の問題は、仮名遣いの問題が1点。 また、これまで独立して出題されていた条件作文の問題（200字以内）が、大問3の中に組み込まれた。（9点）			

	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)	令和3年度(2021)	令和2年度(2020)	平成31年度(2019)
問題量（A4で）	10ページ分	13ページ分	14ページ分	11ページ分	11ページ分
小問数	23問	20問	21問	21問	21問
論述問題の数	7問	9問	10問	9問	10問
論述問題配点	29点	36点	33点	34点	36点
受検者平均点	26.2点	24.6点	21.5点	26.5点	23.6点

【出題の傾向と対策】

①漢字・語句・古文や漢文の基本文法に関する知識は毎年出題される。

知識の定着を図る学習を日々継続しておこなっておくことが必要。

[一] 1 ㊦「凝って」の読みを書きなさい。（受検者正答率 58.7%）

[二] 1 ㊦「フカ」の漢字を書きなさい。（受検者正答率 42.9%）

[三] 2 「いはるる」を、現代仮名遣いで書きなさい。（受検者正答率 66.6%）

★漢字そのものの難易度は高くないので、日頃から漢字を形だけでなく意味も理解して覚えておくことが必要です。「読み」と「書き」を併せて配点は6点もあります。全体（50点満点）の12%を占めているので、決して落としてはならない問題です。

★問題形式が古文の場合は「仮名遣い」の問題が、形式が漢文の場合は「返り点」か「書き下し文」の問題が出題される可能性が高いです。しかし、問題の難易度は易しめですから、文法の基本を理解しておきましょう。

②記述問題の割合が大きい。その配点割合は、条件作文の問題も含めると、全体およそ6割（50点満点中29点分）に及ぶ。

[二] 4 ㊦地域社会が保全を通じて持続的に経済的な利益が得られる仕組みとあるが、【文章2】で述べられているアンヘル・アルカラが考えた同様の仕組みを、五十字以内で書きなさい。

（受検者正答率 3.8%、部分正解者の率 63.0%）

★傍線部の内容を具体的に書くことが求められました。抽象的な内容を具体的に言い換える問題は昨年度も出題されています。日頃の問題演習において、条件に従い適切な表現で答えを書く力を高めておくことが必要です。また、本番では最低でも部分正答を狙い、得点アップにつなげるのが大切です。

③文章内容に応じた「生徒の会話」「台本」「記事」「図」「ノート」などの資料が与えられ、それらを読み取る問題が出題される。

[一] 6(2) 次の【ノート】は、【生徒の会話】のあとに、清水さんたちが、話し合いの内容を踏まえて、ノートに書いたものです。この【ノート】の空欄Vに当てはまる適切な表現を、俳句の特徴を踏まえて、六十字以内で書きなさい。（正答率 13.7%、部分正解者の率 43.0%）

【ノート】

- ユミが「知らないままでいい」と思った理由
三人は、（ V ）という関係にあるから。

★令和5年度は、資料が、文章について生徒同士で話し合った内容の要点をまとめた「ノート」の形式になっていました。問題は主題を問うもので、文章中の伝えているものを読み取る力が試されました。また、「俳句の特徴を踏まえて」という条件付きだったので、日頃から、問われていることは何かを理解し、問題の条件を守って適切な表現で答える練習を重ねておきましょう。

④令和5年度からは、これまで独立した大問として出題されていた作文問題が、大問3の古文読解問題の一部として出題された。これまでの資料読み取り型から、文章読解型の作文問題に変わったといえる。自身の考えを二百字以内で書かせるのは例年通り。

[三] 3 ②主によりて歌の善悪をわかつとあるが、「主」によって「善悪をわかつ」ということについて、歌以外の例を日常生活の中から一つ挙げて、あなたの考えを書きなさい。ただし、次の条件1・2に従って書くこと。

条件1 二段落構成とし、第一段落には、歌以外の例を一つ挙げて書き、第二段落には、「主」によって「善悪をわかつ」ことに対するあなたの考えを書くこと。

条件2 現代の言葉を用いて、二百字以内で書くこと。

★傍線部が指摘する問題点に対して、自分の意見を述べる問題でした。古文の意味を正確に読み取ることができなければ、的外れな内容を書くことになります。次年度も同じ形式で出題される可能性があるので、古文や漢文の読解力を高めておくことが必須です。また、古文・漢文の文章が示す意見や問題点に対して、自分の考えを持つことやその根拠となる具体的な事実を示すことを意識して文章にまとめる練習をしておきましょう。

解答

① [一] 1 ㊦ こ [二] 1 ㊦ 負荷 [三] 2 いわるる

② [二] 4 (例) 海洋保護区を設置し、生物多様性を守ることによって魚を増やし、持続的に漁業で利益を得られる仕組み。(48字)

③ [一] 6(2) (例) 限られた文字数の中で表現する俳句を通した仲間であり、全てを言葉にして伝えなくてもたがいへの思いはじゅうぶんわかる(58字)

④ [三] 3

(例) 有名な画家が描いた絵であれば、大したことがなかったとしても優れた絵だと判断し、無名な画家が描いた絵であれば、優れていたとしても大したことの無い絵だと判断することが、例として挙げられる。

私は、作者が有名か無名かによって、作品の価値を判断することに反対だ。このような判断は、作品を評価しているとは言えない。大切なことは、自分自身で作品自体をしっかりと見て、価値を判断することだと考える。(191字)

※解答は県発表の標準解答に拠る